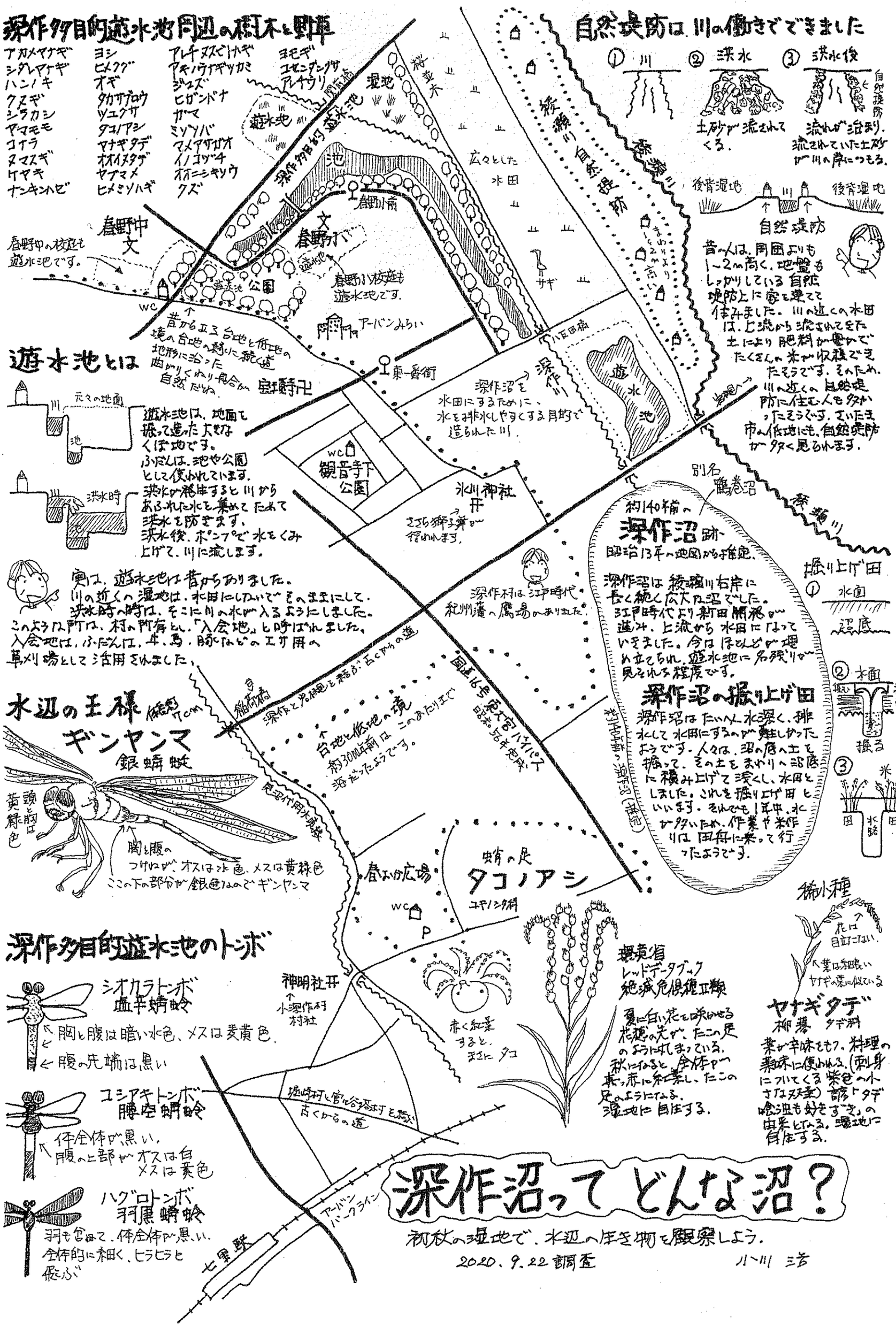
# 深作多目的遊水池周辺の樹木と野草

アカメヤナギ
シダレヤナギ
ハンノキ
クヌギ
シラカシ
ヤマモモ
コイラ
ヌマスギ
ケヤキ
ナンキンハゼ

ヨシ
ヒメクグ
オギ
タカサブロウ
ツユクサ
タコノアシ
ヤナギタデ
オオイヌタデ
ヤブマメ
ヒメミソハギ

アレチヌスビトハギ
アキノウナギツカミ
ジュズ
ヒガンバナ
ガマ
ミゾソバ
マメアサガオ
イノコヅチ
オオニシキソウ
クズ

ヨモギ
コセンダングサ
アレチウリ




## 自然堤防は川の働きでできました

① 川
② 洪水
③ 洪水後

土砂が流されてくる。

流れが治まり、流されていた土砂が川の岸につもる。

自然堤防

昔の人は、周囲よりも1～2m高く、地盤もしっかりしている自然堤防上に家を建てて住みました。川の近くの水田は、上流から流されてきた土により肥料が豊かでたくさんの米が収穫できたそうです。そのため、川の近くの自然堤防に住む人も多かったそうです。ずいぶん市の低地にも、自然堤防が多く見られます。

## 遊水池とは

元々の地面
川
池

洪水時

遊水池は、地面を掘って造った大きなくぼ地です。
ふだんは、池や公園として使われています。
洪水が発生すると川からあふれた水を集めてためて洪水を防ぎます。
洪水後、ポンプで水をくみ上げて、川に流します。

実は、遊水池は昔からありました。
川の近くの湿地は、水田にしないでそのまま残して、洪水時の時は、そこに川の水が入るようにしました。
このような所は、村の所有とし、「入会地」と呼ばれました。
入会地は、ふだんは、牛、馬、豚などの エサ用の草刈場として活用されました。

## 水辺の王様 ギンヤンマ

銀蜻蛉

頭と胸は黄緑色

胸と腹のつけねが、オスは水色、メスは黄緑色
ここの下の部分が銀色なのでギンヤンマ

## 深作多目的遊水池のトンボ

シオカラトンボ
塩辛蜻蛉
胸と腹は暗い水色、メスは麦黄色。
腹の先端は黒い

ユシアキトンボ
腰空蜻蛉
体全体が黒い。
腹の上部がオスは白
メスは黄色

ハグロトンボ
羽黒蜻蛉
羽も含めて、体全体が黒い。
全体的に細く、ヒラヒラと飛ぶ

# 深作沼ってどんな沼？

初秋の湿地で、水辺の生き物を観察しよう。

2020、9、22調査　　小川 三吉